



くろもとたかふみ
藏本隆文議員

**災害が来る前に地区防災体制を
早期に整え、市民の安全確保を**

議員 ①災害時の職員の体制・役割分担についてたずねる。②災害時の情報収集手段の進捗状況についてたずねる。③避難所運営の体制についてたずねる。④自主防災組織における地区防災計画策定についてたずねる。

市長 ①災害の状況に応じて、注意・警戒・非常の3つの体制を定めている。②職員のパトロールや、自主防災組織、消防団等の防災関係機関、市民からの通報等により、情報の収集・把握に努めている。③避難者、地域住民による自主的な運営が原則であり、市は物資の調達等の後方支援を行う。④地区住民が自助共助の精神に基づき、市と連携し、自発的な防災活動の促進や防災力の向上のため、地域の特性に応じて計画する。



議員 避難所利用者登録票等、基本的な部分をマニュアル化すれば、地区防災計画を独自に策定する地域が増えると考えている。

行政運営にも失敗はある。隠し事をせず認めることも重要！

議員 旧粗飼料生産供給基地のトイレ改修について、議会から監査を請求した。監査結果では、「市長及び副市長はいたずらに不都合な事実を糊塗して事実を覆い隠すのではなく、失敗は失敗として明らかにして、新たな展開を図るという姿勢が必要である」とあるが、なぜこのような事を行ったのかたずねる。

市長 事実を糊塗したり、覆い隠すような協議を行うことも、またそのような判断を下すこともない。

議員 嘘はあってはならない。



くりお のりこ
栗尾典子議員

これからの笠岡のまちづくりについて問う

議員 まちづくり協議会や公民館等各種団体のソフト面、ハード面を一体化し、連携することで、指揮系統とお金の流れを統合できないか。

市長 当面は現状のままやっていくが、将来的には協議会の会長と館長の兼任もあり得る。事例を見ながら判断したい。ハード面の一体化も可能性としては十分ある。

議員 定住促進の施策として、リフォームや、耐震化の補助金の見直しについてたずねる。

建設部長 県内の他市に比べ、補助金、補助率とも低いので、上げる方向で協議を進めている。

議員 駅を中心に拠点複合機能



を促進させるために、公共施設の整備をする考えはあるか。駅周辺と番町地区の拠点体制を一つに集約できないか。文化ゾーンを中心市街地に集約するべきではないか。笠岡の未来の空間イメージを示していたきたい。

市長 二拠点体制でやっていく。笠岡の中心は県庁通りであり、文化ゾーンは駅周辺であると認識している。駅に南口を設置し、市有地を売り、民間の力を活用することで賑わいづくりの拠点をつくる。公共施設の入替え、統廃合は現在活用している土地の中で行う。

議員 本庁舎の建替えを含め、市民の利便性を高めるため、歩いて動ける範囲で、駅を中心とした公共施設の集約を望む。